

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「地域や関係機関との連携を深める中で、一人ひとりの児童・生徒の障がいや発達の状態に応じた、最も必要で適切な教育の創造」をめざす。支援学校として時代のニーズに対応した専門的機能を再構築し、教職員と児童・生徒及び保護者とのつながりを深めながら、次に掲げる事柄を中心とした教育の展開をめざす。

- (1) 健康の保持・増進に関する習慣や態度を育て、体力の向上に努める。
- (2) 情緒の安定を図り、素直で明るく誠実に生きる態度を養う。
- (3) 豊かな人間性と社会性を育て、自己実現の達成をめざす。
- (4) 共に生きる人間として尊重しあう態度を育てる。

2 中期的目標

- 1 より一層、安全で安心な学校づくり
 - (1) 様々な障がいのある本校児童生徒への有効な支援や対応方を研究し、児童生徒の自己肯定感を高め、一人ひとりに必要で適切な支援の充実をめざす。
 - (2) 児童・生徒一人ひとりの人権を尊重し、安全で安心な学校づくりを更に推進する。
 - ア 医療的ケア体制の充実、ならびに肢体不自由のある児童生徒への教育内容の充実を図る。
 - イ 大規模災害等の災害に備え、対応マニュアルの更新と訓練の実施と検証、及び必要な物品の充実を図る。
 - ウ 体罰防止と個人情報の適切な管理運用を行い、児童生徒・保護者から信頼される学校づくりを進める。
- 2 現在の教育課程の検証を行い必要な改善を図るとともに、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用による教育活動の充実、関係機関との連携による児童生徒への支援の充実を図る。
 - (1) 学習指導要領の改訂を見据え、現在のカリキュラムの検証を行い、連続性のある学びの構築に向けた必要な改善を図る。
 - (2) 「個別の教育支援計画」等を合理的配慮の観点で踏まえた充実を図るとともに、R（現状分析）-P D C Aサイクルによる教育・支援の充実を図るとともに、校外の関係機関とも連携して児童生徒へのより有効な支援をコーディネートする。
- 3 系統的なキャリア教育の推進、ならびに就労移行を支援する体制の充実
 - (1) 早期より系統的なキャリア教育を推進し、職業観、勤労観の育成をめざす。
 - (2) 関係機関と連携し、進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実を図る。
 - (3) 高等部生徒の実態に対応した指導・支援方策のさらなる充実を図る。
- 4 専門性の向上、及び、経験の少ない教員の育成も含めた系統的な校内研修の充実と研究体制の整備を図る。
 - (1) 保護者及び地域のニーズに対応した専門性の向上をめざす。
 - (2) 知的障がい教育における学習内容や支援方法についての研究を行い、専門性の向上を図る。
 - (3) 教員構成の変化に対応した系統的な校内研修体制をさらに充実させ、経験の少ない教員の育成を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>結果概要と分析：アンケートの評価は A:よくあてはまる<4 点>B:ややあてはまる<3 点>C:あまりあてはまらない<2 点>D:まったくあてはまらない<1 点>の得点を平均してポイント化<以下 P>した)</p> <p>1 保護者アンケート(回収率 60.7%、H28: 65.3%より減少)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全 31 項目の平均 P は H28:3.49→3.44P で、微減だが引き続き高評価を維持。 ・評価が高い項目(平均 3.6P、肯定的評価<A+B>95%以上) <p>⇒「参観や学校行事への参加」「スクールバスのスムーズな運行」「学校生活の様子を懇談や連絡帳で知ることができる」「学校行事企画の工夫」「学校からの文書・事務連絡は適切」「災害時の対応周知」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価が低い下位 4 項目(平均 3.3P 以下) <p>⇒学校のホームページに関する 2 項目(よく見る、わかりやすい)と施設設備面の 2 項目。</p> <p>*上位項目との関係を見ると、学校生活の様子は連絡帳等で十分知ることができており、台風時の連絡は安全メールがあり、保護者があえてホームページを見る必要性がない状態にあることが推察される。</p> <p>2 教職員アンケート(回収率→95.1%(昨年 95.0%)と向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全 49 項目の平均 P は 3.01P で、昨年とまったく同じ。 ・評価が高い項目(平均 3.3P 以下) <p>⇒「個別の教育支援計画・指導計画」の作成と活用、「生徒の適性に応じた進路指導」「学校行事の工夫」「公文書の収受・管理」「センター的機能」等が昨年同様に高評価。</p> <p>*保護者や関係機関等との連携のもと、児童生徒の指導・支援については良好な取り組みが行われていると考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価が低い項目(平均 2.7P 以下) <p>⇒「施設設備の整備」「教育計画の作成時の話し合い」「研修の伝達」「教職員が意欲的に取組める校内人事や校務分掌の分担」「研修に計画的に参加する体制」など。昨年まで下位 5 項目に入っていた「初任者等を学校全体で育成する体制」「授業見学の機会」はわずかながら向上した。</p> <p>*外部の研修参加の体制や伝達の工夫、教員が意欲的に取組める組織体制の検討が求められていると考える。</p> <p>◆特記事項:保護者回答で「子どもは授業が楽しくわかりやすいと言っている」の肯定的評価が 75%で H28 比+15.4P 向上。また、教職員回答で「児童生徒の将来を見通した指導支援を心掛けている」の肯定的評価が 92.5%で H28 比+6.8P 向上。これらは、昨年度から取り組んでいる「自己肯定感・授業力向上プロジェクト(JJup)」の成果の表れている兆しと考えられ、次年度以降も、この取り組みを定着・発展させることを検討する必要がある。</p>	<p>第1回 6月23日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路について:福祉就労の充実を進路指導部の計画の1番に挙げられていて、中・重度の生徒の社会参加を重視した取り組みを行っていることが良い。 ○大規模災害時の必要物品の充実について:大規模災害になった時に個々によって必要な物が違う。学校としてどう対応するか検討を。 ○授業力向上に向けて:一つの指導法にとらわれず、子どもたちの内面を探り、細かな実態把握を行うことで、新たな良い指導法が見つかることもある。 ○アレルギー対応について:アナフィラキシーショックは、初発の子が多い。食べ物でこういった事象はなかったか家庭におけるヒヤリハットを聞いておくだけでも準備ができる。 <p>第2回 11月24日(金)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路について:教員の入れ替わりに対しての対応はどのように行っているのか。 ○研修関係:教員の研修内容を HP にあげている学校もある。保護者は先生方がどのような研修を行っているのかを知りたいので広報について検討を。 ○授業力 UP について:一つひとつの取り組みをやって、課題が見つかる。JJ-up の報告を受けて、学校の中が動いていると感じた。ポスター発表形式の取り組みを楽しみにしている。 <p>第3回 2月14日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修関係:小・中・高の学部間の壁を感じることもある。学部を超えての研修や情報交換は、子どもたちのためにもなるので今年だけでなく今後も続けてほしい。 ○ICT関係:ICT の利活用推進には先生方の準備の大変さや不具合時の対応が課題。市立小中学校の様に ICT 支援員制度が府でもあるとよいのではないかな。 ○就労関係:卒業後、事業所等で作業スキル向上をめざしているが、JJup ニュースに書かれている基本行動(挨拶や規則正しい生活等)は学校でしっかり身に付けて送り出してほしい。 ○授業づくり:子どもが「わかってうごける授業」となるための学習環境や支援手段は大切。加えて T1 を邪魔しないような T2 の動き方の工夫を考える必要がある。 ○その他:経営計画に沿って実績を上げるのは重要。一方で、先生方の時間や精神的負担感もあるのも事実。先生方は「子どもたちのために」を合言葉に頑張っているが、やりがい・大変さ・時間のバランスを考える必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 より一層、安全で安心な学校づくり	<p>(1) 様々な障がいのある児童生徒への有効な支援や対応方策を研究し、児童生徒の自己肯定感を高め、一人ひとりに必要で適切な支援の充実をめざす。</p> <p>(2) 人権を尊重し、安全で安心な学校づくりを更に推進</p> <p>ア 医療的ケア体制の充実、肢体不自由のある児童生徒への教育内容の充実</p> <p>イ 大規模災害等の災害への備え</p> <p>ウ 体罰防止と個人情報の適切な管理運用</p>	<p>(1)①昨年度から2年計画で進めている「自己肯定感・授業力向上プロジェクト(JJup)」を各分掌の連携と協働を軸に更に充実させる。</p> <p>②視覚支援を中心とした子どもへの支援環境の整備を継続し、ICT 機器等の活用をさらに推進する。</p> <p>(2)ア 医療的ケア体制の充実、特に中学部での安全な実施体制を構築。</p> <p>イ①大規模災害等の災害に備え、対応マニュアルを更新し、それに基づく訓練を実施し検証。</p> <p>②災害に備え必要な物品の充実。</p> <p>ウ①児童生徒の障がい理解や人権教育を推進し、体罰防止に取り組む</p> <p>②個人情報の適切な管理運用。</p>	<p>(1)①・授業等における児童生徒の自己肯定感チェック表を作成</p> <p>・2年間の取組みの成果を1月頃迄にまとめHP等で発信</p> <p>②学校教育自己診断(教員)におけるICT活用評価3.20P(H27)よりアップ</p> <p>(2)ア医療的ケア・肢体不自由学級の安定した運営(重大事故0件)</p> <p>イ①マニュアルの更新(8月)</p> <p>マニュアルに基づく防災・避難訓練を実施(年2回)</p> <p>②災害に備え必要な物品の充実。</p> <p>ウ①障がい理解及び人権教育に関する研修の実施(学期に1度)</p> <p>②個人情報の紛失・漏えい0件</p>	<p>(1)①各分掌との連携と協働で進めることができ、広く校内に発信できた。自己肯定感チェック表は研究授業で活用、授業の前段階から意識するようになった。</p> <p>・取組み成果は学校協議会で報告後、関係資料をまとめ pdf 化し校内 NW で共有。掲載可能なものは HP に掲載予定(○)。</p> <p>②ICT 活用評価は H28 と全く同 P(3.04P)で H27 は上回らなかった(△)。</p> <p>・実際の ICT 機器活用は、サーフェイスが接続故障で利用が進まなかったが、iPad は自撮りや調べ学習で毎月延べ 150～200 台ほど活用しており、需要はそれ以上にあるが台数が不足している状態。</p> <p>(2)ア医ケア体制:ヒヤリハット事例を迅速に共有した。重大事故 0件。(○)</p> <p>イ①地震避難訓練(11 月)と火災避難訓練(1 月)を実施。地震については大規模災害時初期対応マニュアル作成のため災害対策本部設置に向けた教員配置人数を確認できた。大規模災害対応委員会を 3 回開催し訓練の反省等をマニュアルに反映した(○)。</p> <p>②防災備蓄用飲料水の更新と生徒の実態に応じた備蓄を進めるため次年度に家庭から1日分持参してもらうための防災袋を PTA の協力で購入した(○)。</p> <p>ウ①人権に関する校内研修を毎学期悉皆で実施した(○)。</p> <p>②・個人情報の紛失等 0件 (○)</p>
2 教育支援計画」等を活用した支援	<p>(1)学習指導要領改訂を見据え、現在のカリキュラムを検証</p> <p>(2)「個別の教育支援計画」等の充実、R-PDCAサイクルによる教育・支援の充実、関係機関と連携した児童生徒への有効な支援</p>	<p>(1)教務部を中心として学習指導要領改訂に関する理解を深めるとともに、現在のカリキュラムの必要な改善について検討する。</p> <p>(2)①「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成・活用において、R-PDCAサイクルを生かした教育活動の工夫改善を行う。</p> <p>②支援部・進路指導部などによる関係機関との連携をさらに充実させる。</p>	<p>(1)教育課程検討委員会等を年 10 回程度実施</p> <p>(2)①学校教育自己診断における学習の評価や「個別の指導計画」に関するポイント評価 80%以上を継続</p> <p>②・地域支援 180 回以上を継続</p> <p>・「校内支援連絡会」(高等部)の定例開催(月1回程度)</p>	<p>(1)教育課程検討委員会を各学部で年10回程度(小:9回 中:9回 高:13回)実施し、必要な案件を検討し部会等に提案した(○)。</p> <p>(2)①「個別の指導計画」に関するポイントは「保護者の参画のもと作成」(92.5%)、「教育活動全般にわたって活用」(88.2%)と高評価。(○)</p> <p>②・リーディングスタッフによる地域支援 190 件。</p> <p>・「校内支援連絡会」を毎月1回定例実施。(○)</p>

府立守口支援学校

<p>3 系統的なキャリア教育の推進、就労移行を支援する体制の充実</p>	<p>(1) 早期より系統的なキャリア教育を推進。</p> <p>(2) 関係機関と連携し、進路の実現及び就労移行を支援する体制の充実を図る。</p> <p>(3) 高等部生徒の実態に対応した指導・支援方策のさらなる充実を図る。</p>	<p>(1) 小・中・高の連続性のあるキャリア教育プログラム案作成の検討を始める。</p> <p>(2) ①関係機関との連携や就労への取り組みを継続実施 ②高等部 3 年の希望する進路の実現に向けた適切な支援。</p> <p>(3) ①高等部生徒の障がいの状況が多様化していることと就労支援経験の少ない教員が多くなっているという課題に対応した指導支援方策の再構築。 ②就業・生活支援センターと連携し卒業生の就労定着を支援</p>	<p>(1) 教育課程の検証と合わせ、守口支援学校版「キャリア教育プログラム」作成のための研究 PT 等を作る。</p> <p>(2) ①進路担当による守口・門真市の地域会議等への参加(H28 参加回数より増やす) ②「職業自立コース」在籍生徒全員の就労</p> <p>(3) ①経験の少ない教員が就労支援研修へ参加する(延べ4～6人) ②就業・生活支援センターと連携し平成28年度就労した卒業生全員の定着を支援</p>	<p>(1) 進路指導部で各学部1名のキャリアプログラム担当を決め、担当教頭とも連携して研究協議を重ねている。 小⇒中⇒高と内部進学した生徒1名の自立活動の目標と評価をつなぎ傾向を分析、実践交流会で発表した(○)。</p> <p>(2) ①進路担当による地域会議等への参加 H28 年度 42 回⇒今年度 43 回(○) ②職業コース5名中4名が企業就労、1名は本人希望で福祉事業所を選択。生活自立コースの1名が企業就労。 (○)</p> <p>(3) ①高等部の経験の少ない教員を連続講座の就労支援研修や進路ブロック会議、職業コース交流会等に5名派遣した(○)。 ②昨年度就労した4名の内、1名は5月末に離職したが、現在アルバイト就労している。他の3名は継続就労しており、その内1名は進路担当教員がセンターとの職場訪問等実施し職場定着に繋がっている。 (○)</p>
<p>4 専門性の向上、系統的な校内研修の整備</p>	<p>(1) 保護者及び地域のニーズに対応した専門性の向上。</p> <p>(2) 知的障がい教育における学習内容や支援方法についての研究を行い、専門性の向上を図る。</p> <p>(3) 教員構成の変化に対応した系統的な校内研修体制をさらに充実させ、経験の浅い教員の育成を図る。</p>	<p>(1) 学校HPに関する評価が低かったことを踏まえ、学校の活動を積極的にHPで発信する。</p> <p>(2) 再編した「自立活動・研究部」の体制を充実させ、知的障がい教育における学習内容や支援方法についての研修等や情報共有をする。</p> <p>(3) ①経験の少ない教員の専門性向上・授業力向上のため、系統性のある校内研修や教員間の授業見学を進める。 ②他の都道府県も含めた優れた取り組みの発表や公的な研修に教員を派遣する。</p>	<p>(1) 学校教育自己診断(保護者)におけるHP項目の評価をH28よりアップ</p> <p>(2) 外部講師等による専門性向上に関連する研修を5回程度実施・情報共有のため掲示板等の利用を促進</p> <p>(3) ①校内での新転任者研修を再検討する(5月迄)とともに、教員間の授業見学の機会を作り、学校教育自己診断(教員)の「初任者等への学校全体での育成体制」「授業見学の機会」の評価をH28よりアップ ②他府県等で開催される実践発表や公的研修会等への参加5名以上</p>	<p>(1) 今年度はHP改修を行いブログの行事報告、行事予定など迅速に情報発信したこともあり「HPの内容はわかりやすい」はH28(2.6P、肯定的評価24%)、H29(2.6P、肯定的評価26.7%)と肯定的評価が若干だが向上した(○)。</p> <p>(2) 外部講師等による専門性向上に関連する研修を8回実施した。 ・研究授業の内容を情報共有のため掲示板に掲示した。また、研修案内を職員朝礼でアナウンスし掲示した。(○)</p> <p>(3) ①校内での新転任者研修の内容を精選し、支援教育の基礎的・基本的研修を充実させた。 ・学校教育自己診断(教員)の「初任者等への学校全体での育成体制(2.51P→2.71P)」「授業見学の機会(2.63P→2.69P)」と、H28に比べ若干だが向上。 (○) ②他府県等で開催される実践発表や公的研修会等へ7名が参加した(○)</p>